

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎朝、朝礼で理念及び行動指針を唱和するとともに施設会議等において理念と関連性必要性を説明している	毎日の朝礼で企業の理念や行動指針を唱和しています。また、施設会議では理念との関連性必要性について意識の共有をしています。日頃のケアにおいては、難しい内容であっても利用者に対しては、明るい笑顔で触れあうことを大切にしています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	現在コロナ禍でできていないが、食事などは外食など行っています。また外出などしています。	コロナ禍の影響で地域とのつきあいはできていないのが現状です。それでも、月に4、5回程度、職員がついて施設の周囲を1、2周する程度の外出をしています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議へ町会長など地域の方の出席を促している。お客様の理解を深める場を設けている。現在コロナの為書面にて対応いただいています		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月ごとに運営推進会議を開催し状況報告とともにご家族の意見を反映しサービス内容の見直しをおこなっている	会議は、コロナ禍で関係者等が参加しての開催ができません。文書だけのものになっています。地域包括からは意見をいただいています。家族の面会も希望の強い方だけ玄関先で数分だけの面会をしています。	文書型の会議では意見があまり出てこない現状があるようです。意見が出やすくするために、具体的な質問、提案などを工夫を期待します。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	管理者、ケアマネージャーなどで連絡を密に行い、事故等の書面報告も確実にを行っています	管理者、ケアマネージャーなどが市の担当者と連絡を密にとっています。利用者の転倒事故がありましたが、これも本社、家族にも連絡をした上、市へも書面での報告をしています。生保受給者はいません。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	定期的に内部研修に加え拘束防止委員会を毎月実施している事態的事例を取れ入れて体及び心理的な拘束・虐待についても理解を深めている	内部研修は毎月1回管理者が全職員を対象にして行っています。拘束防止委員会では事例を取り上げ、心理的な拘束、虐待について検討し、理解を深めています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	定期的に内部研修に加え拘束防止委員会を毎月実施している事態的事例を取れ入れて体及び心理的な拘束・虐待についても理解を深めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修及び日常の中において社内資料などを参考に権利の理解を深めている		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	十分なヒアリングを行い、その説明をするともに契約締結後も疑問・不明点の払拭につなげている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議を開いたり、日常の訪問して頂いたりする中で御家族の意見を反映しサービス内容の見直しを行っている	家族の意見は、運営推進会議や日常の訪問の中でのなるべく聞き取り、その意見を業務に反映させるようにしています、しかし、コロナで面会が困難となり、玄関先での限られた時間での面会をしているのが現状です。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月二回、会議(フロア会議・全体会議)を実施するとともに個別面談も行い意見交換し意思の疎通を図っている	毎月フロア会議と全体会議を1回ずつ開いています。参加者は管理者、計画作成者、職員です。個別面談は2、3カ月に1回実施し、仕事に対する悩みなどを聞き改善すべきは改善し、意思の疎通を図っています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個別面談(最低2回/年)やブラザーシスター制度やOJTのにより把握した要望について環境改善を行うとともに雇用条件については本社と協議し改善を図っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内部・外部研修の実施をするともに日常ケアの中でOJTブラザーシスター担当および先輩が指導できる体制になっている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	各協議会への参加及び運営推進会議へ他者事業者に参加していただきネットワークを構築するとともにサービス品質向上のために情報の共有化を図っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	アセスメント及び関係者から情報を収集し趣味嗜好、生活状況も考慮し新しい環境に馴染めるよう配慮している		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	見学及び初期面談において十分なヒアリングを行いプランへ反映するとともにその後の面会等においても情報収集に勤めている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	十分なヒアリングを行いプランへ反映するとともに受診などの必要なサービスの提供を実施している		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日々の生活の中で可能な役割を持っていただき、またお客様の活動を促進しフロアを超えて交流するなどの場を提供している		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	相互に意見・情報を交流できるようご家族と良好な関係作りに努めており、またイベントなどへの積極的参加及び毎月連絡票の送付も行っています		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	日常やイベントにおいてご家族の参加・面談をお願いするとともに医療機関やなじみの治療師の継続に努めている	この一年間では、イベントに家族が参加した例はありません。ただ、リハビリや治療師が週2回、それぞれ30分ほど見えています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	御本人の意思を尊重しつつ積極的にフロアを超えた歓談や交流の場を提供している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	必要に応じ情報提供や相談など行っている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	アセスメントを含め、その人らしさを失わないようまた日々においてお客様意向の把握に努めている。なおご本人の希望や目標を抜き出し日々の業務日誌に添付している	その人らしさを失わないようひとり一人の意向の把握に努めています。把握のできる人は直接に、困難な方は家族を交えて話し合っています。本人の希望、意向を日々の業務日誌に添付して共有しています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	アセスメントを含めその人らしさを失わないようまた日々においてお客様の意向の把握に努めている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個々の現状の身体状況に合わせた活動計画を策定しケアの見直しを努めている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	モニタリングやケアプラン更新において職員や御家族の意向等を反映し計画策定している	介護計画は、計画作成者が職員や家族からの情報を把握し、検討の上、作成しています。それを家族に送り、その同意をもらっています。過去に、計画策定に支障を来した事例はありません。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録、業務日誌及び申し送りノートなどで情報の共有化を図っている。気づきや工夫記録方法については改善が必要である資料を入手し研修を予定している		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	お客様の状況やニーズに応じ買い物や受診マッサージなどのサービスを行っている。また買い物を楽しむため訪問販売も検討している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域やボランティアやケータリング施設イベントや誕生日会などで季節感や生活の質の向上に努めている		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	往診かかりつけ医の変更を行い往診回数の増加よりお客様の状態に合わせた医療を提供している。またご家族の指定・希望の医療機関へも継続受診している。	利用者は内科週2回 歯科月2回の訪問診療を受けています。協力医療機関への通院や家族の指定・希望の医療機関への受診は家族が付き添っています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	提携訪問看護師との関係を密にし必要により相談・アドバイスを受けている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	提携訪問診療医から医療情報を提供し必要により日々の状況等伝え、その後も情報交換も家族と行っています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看取り体制の構築と共に毎月職員に看取り研修を行い医療看護との連携により終末期を備えている	重度化した場合や終末期には家族に現状を報告し、家族の意向を確認しています。看取り介護になった場合は家族から同意書を得ています。看取りに入ったことは職員や医師に報告し、看取りケアに沿って支援しています。職員は毎月研修を受けています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的な研修及び現実の救急搬送などにおいて説明を行っている。また研修も行っている		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防の参加を含めた定期的な研修を実施している。また定期的に研修も行っている 近隣職員による応援体制も整備	防災訓練は年2回、役割分担を決め、職員を中心に行っています。夜間を想定した避難訓練も行っています。近隣職員による応援体制も整備しています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	定期的な研修及び言葉遣いについても日々注意するよう説明している	職員には毎月内部研修を実施し、利用者への対応について研修しています。一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねないよう、利用者の意見を尊重し、団体活動できない人には無理強いしないで対応しています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ケアプランや日々の活動の中で自己選択できるよう心掛けている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	生活のリズムを考慮しつつご本人の希望に沿ったペースで生活していただいている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎朝、静養を確認しお好みの服装をしていただき出来ない場合は職員が支援している		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	盛り付けや配膳・片付けなどを可能な範囲で一緒に行っている	利用者は盛り付けや配膳・片付けなど可能な範囲で職員と一緒にを行っています。献立には利用者の希望を取り入れています。外食にはまだ行けないので、誕生日会のケーキ、仕出し弁当などで対応しています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事形態も考慮し食事量、水分の接種量を把握・調整している。また施設からの提供する以外に御家族と連携しお好みの食材等を提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食実施しており、必要要望により毎月訪問歯科も月二回行っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	残存能力を生かした介助を心掛けている 最後までトイレで排泄を行えるように支援している	職員は利用者の排泄パターンを把握し、個々の残存能力を活かして、最後までトイレで排泄を行えるように支援しています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄の状況を把握しお客様の状況に合わせて 食事と排泄について研修や日々の運動に心掛けている		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	お客様と相談の上、2回/週の入浴、必要により陰部洗浄など清潔維持を実施している	入浴は週2回、日中(午前・午後)にわけて対応しています。機能が低下した人は昇降ユニットを利用し入浴しています。入浴拒否の人には丁寧に説明し適切な対応を図っています。入れない場合は清拭等を行っています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	午後の静養や就寝時間など個別に合わせて行い、室温温度調整をしている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	提携医療機関と連携し情報共有を図り御家族とも相談の上状態に合わせて見直しをしている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日々の生活の中で可能な役割を協力して頂き、活動量を増加できるよう外出散歩や運動及びイベントなどで楽しんでいただいている		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	現在コロナ禍で十分な外出ができていないが日々の生活の中で散歩やイベントと合わせて外出できるようにしている	散歩は施設の周りを職員とマンツーマンで数周しています。月4、5回程度です。コロナ禍でイベントは現在行っていません。外出できないので、利用者が楽しめるように季節ごとに、絵馬に願い事を書いたり、節分で鬼のお面をつけたり、納涼祭でのスイカ割りなどを行いました。	コロナ禍で外出が出来ていませんが利用者が近くの公園に出かけ、わずかな時間だけでも日ごろと異なる風景を見たり、公園内を散策したりする機会を増やせるような工夫を期待します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個々の能力に合わせて日々の生活の中で買い物に出かけ資金管理の支援を行っています		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手帳やノートでの番号管理や電話手紙など必要に応じ支援している		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感を感じて頂けるような装飾をお客様と一緒に作成したりお客様の意見を尊重し実施している	利用者が多くの時間を過ごすホールは、季節に合わせた装飾や利用者の作品が飾られ、季節感が感じられるようにしています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロアを超えて歓談して頂いたりスペースを有効利用して過ごしていただいている		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	御本人、御家族と相談しながら寝具や衣服など季節に合わせて変更するなど環境を整えている	入居時に使い慣れた家具や写真、馴染みの品物を持ち込み、居心地よく過ごせるように工夫しています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	日々の生活の中で可能に役割を持っていたくなど個々の活動計画を策定し自立化へ向けた活動に努めてる		